

はしがき

本書で上海経済圏とは、上海市、江蘇省、浙江省を合わせた地区を指す。中国では長江デルタ地区ともいう。長江（揚子江）を巨龍に見立てれば上海が龍頭、江蘇省、浙江省は両翼に当たり、中国という巨龍の龍頭でもある。

面積 21 万平方キロメートル（日本は 37 万平方キロメートル）、人口 1.5 億人（日本は 1.3 億人）、GDP7 兆元＝1 兆ドル（中国全体の 17.6%）。

都市レベルで見ると、上海、南京、蘇州、無錫、杭州、寧波という巨大都市を中心に大中小の都市群がひしめき、その後背では富裕な農村が現代化に向かって離陸しようとしている。

この上海経済圏という市場は今後 5～10 年の間に、どのように発展を遂げるのか？

第 12 次 5 カ年計画（2011～2015 年）においては、GDP 成長率（年率）で上海 8%、江蘇 10%、浙江 8%が目標となっている。一人当たり GDP では、長江デルタ地区全体で 2015 年 8 万 2000 元（2010 年平均レートで 1 万 2000 ドル）、2020 年 11 万元（2010 年平均レートで 1 万 6000 ドル）である。

こうした中国当局の目論見の実現可能性は果たして信じられるか？

その具体的展望を得ようとしたのが本書の編集意図に他ならない。

*

編集に際しては、まず 21 世紀中国総研の創立メンバーでもあるスティーブン・M. ハーナーに、総括的展望を依頼した。

ハーナーの誕生日は、奇しくも上海解放記念日であり、上海とは運命的な因縁がある。米国国務省、シティバンク日本法人、メリルリンチ国際銀行（東京）代表を歴任した後、上海に移り住んで長江世紀有限公司を設立した。そのかわり、ドイツ銀行上海首席代表、杭州銀行取締役、平安銀行深圳副頭取の重任を果たした。

いまや、まさしく長江の世紀がおとずれた！

「長江デルタ三省市の発展と現状の見取図」（第 I 部）は、この米国生まれの金融家の目が見たクリティカルな長江デルタ経済の見取図である。台湾人である夫人のアニー・ハーナーに執筆を懇請したのは、生活感の滲んだ視点を欲したからである。

上海市、江蘇省、浙江省 3 省市については、国家計画・発展委員会による「長江デルタ地区地域発展計画」（2009～2020 年）がある。これはこの地区の綱領的文書であり、骨太に 10 年先の未来図をくっきりと描いている（第 II 部に全文翻訳）。

次いで、上海市、江蘇省、浙江省3省市と南京市、杭州市、蘇州市、無錫市、寧波市の第12次5カ年計画の中核部分を紹介した(第Ⅲ、Ⅳ部)。これは全国の第12次5カ年計画を踏まえた各地の2011～2015年発展のグランド・デザインに他ならない。

そして最後に最新の経済データを一目瞭然にする図表を作成した(第Ⅴ部)。

以上の解説的分析および中国当局の計画文書を基に、上海経済圏市場に対する見通しを得て、市場にチャレンジするのは、読者自身である。

* * *

英文で執筆したスティーブンの原稿と中文で執筆したアニーの原稿を的確軽快な日本文に翻訳したのは21世紀中国総研ディレクターの矢吹晋である。スティーブン原稿中の中文と第Ⅱ部の中文「長江デルタ地区地域発展計画」を下訳したのは朴盛華で、中村が完成稿とした。また各省市の第12次5カ年計画の下訳には金慧瑛、李貞も加わった。ほかに本書の編集実務に参加したのは、阿比留公子、石灰えり子、廖淑真、村井弘明、中村知子である。その名を記して労に報いたい。

2011年3月18日 東北大震災1週間目の混乱の中で
21世紀中国総研事務局長 中村公省